



2024～2025年度
山形東ロータリークラブ会報

第1643回例会 2024年12月27日(金)

点鐘 / 11:00 S.A.A. / 工藤 裕史
会場 / そば処 庄司屋

Rotary
第2800地区



RIテーマ RI会長: ステファニー A アーチック
ロータリーのマジック

地区目標 ガバナー: 芳賀 康雄
ロータリーにもっと誇りをそして学び DEI の心を持って行動実践しよう

クラブテーマ 会長: 深瀬 俊路 幹事: 菅生 勝則
「シン・ロータリークラブ ピア・ロータリアン ハブ・ロータリー」

会長挨拶



深瀬会長挨拶

今年最後の例会は恒例の「年越しそば」例会です。今日が御用納めで欠席となった方もいるようです。会員全員の配慮をすることはクラブ運営をしていくうえで大前提ですが、ロータリーの例会は基本「定刻に集合して対面」での開催です。

山形県は「ラーメン県、そば王国」を広くアピールしています。その王国造りの基礎を築いたのが、当クラブ元会員庄司屋のご主人庄司武彦さんです。

蕎麦の価値を高めることと味の向上にご尽力されてきました。けれども、蕎麦屋の多様性という観点からすると、「山形らしさ」が後退してきているのは非常に残念なのです。

蕎麦屋とラーメン屋との境界線が無かったのが、山形の大きな括りでいう「蕎麦屋文化」なのではないでしょうか。

高校生の頃、自分の小遣いで外食ができるようになりました。その頃、ここがかつ井やラーメンを食べていました。それはとても美味しく、リピーターとなり友人たちと連れ立って来店していました。

この庄司屋さんの一人のファンとして残念なのは、「そば王国」が建国されたことにより、ラーメンと丼物がメニューから消えてしまったことです。そして、来店が基本となり「出前文化」も消滅してしまいます。

山形独自の食文化として、街の蕎麦屋さんでそばやうどん、ラーメンと丼物の全てを食べることができる、という「蕎麦屋文化」の懐の深さがあったのではないかと考えます。

余所の蕎麦で名高い地域には、そばとラーメンがひとつの店舗で共存していることは稀有な形態です。都会の立ち食いソバやでは、そばと丼物はメニューにあっても、ラーメンがほぼ存在していません。会員みなさんも出張やレジャーで余所の土地の蕎麦屋さんの暖簾をくぐるがあったら確認してみてください。

DIE を理解するには、垂直思考と水平思考のふたつのバランスとり方がカギになるのではないのでしょうか。これからも、親睦行事を通して会員同士が「そば」に存在する関係を確認していきたいと考えます。

年越しそば例会



出席情報

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	27名	—	14名	—